



遠州三山と掛川城ゆいウォーク

2026.06.14 9.5km 短縮5km

コースの概要

森町PAでトイレと体操を済ませた後、スマートICから流出して可睡齋へ向かいます。駐車場から総門までは全員で歩き、総門で解散してフリー散策とします。境内では風鈴まつりを開催中です。集合時間をお知らせしますので、それまでにトイレを済ませて総門にお戻りください。油山寺までバス移動を希望される方は、解散時にお申し出ください。時間に余裕がありますので、寺院内の拝観(拝観料700円・自己負担)などをお楽しみください。バスの出発時間と油山寺での集合時間は、解散時にご案内します。ウォークは可睡ゆりの園横の道を進み、軽自動車がよく通れる小さなトンネルを抜けた先で右の山道に入り、しばらく歩いて千鳥ヶ谷池を1周します。軽いハイキング気分が味わえるコースです。アップダウンが苦手な方は平坦なルートを選び、池に着いたら周囲を散策してください。その後、油山寺までは全員で歩きます。油山寺バス駐車場付近で再び解散し、フリー散策後はトイレを済ませて解散した場所に指定時間までに集合してください。油山寺から尊永寺まではバス移動です。尊永寺では、バス駐車場から参道を進み藤棚付近で昼食となります。別の場所での昼食も可能ですが、大人数の場合は藤棚周辺をご利用ください(許可済み)。滞在時間は十分ありますので、散策や開催中のあじさい祭りをお楽しみください。昼食後はバスで掛川大手門駐車場へ移動し、掛川城前を流れる逆川の遊歩道を歩きながら、40種・33,000株のゆりを鑑賞します。帰路はサービスエリア等に立ち寄りませんので、出発前に駐車場でトイレを済ませてください。

次回申込(朝・集合場所で) 富士山お山開きウォーク (村山浅間神社と自然休養林)

- ☆期日 7月10日(金)
- ☆集合 富士宮駅南口 8:00
- ☆参加費 4,500円(昼食弁当付き)
- ☆切 7月6日(月)



参加者の皆様へ

- ・無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

緊急時連絡

里見 祥一 090-6767-2474
由井 英子 090-2778-3899

コース

往路	富士宮駅南口	＝新富士IC	＝森町PA(WC・体操・スマートIC)	＝可睡齋(拝観・WC)
	7:30		8:40~9:00	9:15~50
ウォーク	可睡齋(スタート)	～千鳥ヶ谷池	～油山寺(拝観)	＝バス＝法多山尊永寺(拝観・昼食・WC)
	9:50		11:20~50	12:10~13:40
			＝バス＝掛川大手門P	～逆川遊歩道散策
			～大手門P(ゴール・WC)	
			14:10	14:50~15:00
復路	大手門P	＝島田金谷IC	＝新富士IC	＝富士宮駅南口
	15:00			16:20

可睡齋

室町時代初期、応永8年(1401年)に開山。曹洞宗・専門僧堂として多くの雲水(修行僧)が修行をしている。11代目の住職仙麟等膳(せんりんとうぜん)和尚は、小僧時代に臨済寺で、今川義元の人質となっていた松平竹千代(後の徳川家康)の教育を受け持ったことがあった。その後、浜松城主になった徳川家康は、親しく和尚を招いて旧恩を謝し、その席上でコクリコクリと無心にいねむりをする和尚を見て徳川家康はにっこりし、「和尚我を見ること愛児の如し。故に安心して眠る。われその親密の情を喜ぶ、和尚、眠るべし」といった。それ以来和尚は「可睡和尚」と称せられ、後に寺号も東陽軒から「可睡齋」と改められた。

油山寺

真言宗智山派の寺院。詳しくは医王山薬王院油山寺と称する。本尊は薬師如来。伝承によれば、大宝元年(701年)に行基が創建し、油が湧出した所から「油山寺」の名がついた。その後天平勝宝元年(749年)孝謙天皇が眼病平癒を願い、当寺の「るりの滝」の水で眼を洗浄したところ、全快したので勅願寺に定めた。以来、特に目の守護、眼病平癒の寺として信仰を集める。通称油山(あぶらやま)。元龜3年(1572年)、兵火により焼失。天正2年(1574年)から三重塔の再建が開始されるが、工事には長い年月を要し、屋上の相輪を上げたのは慶長16年(1611年)である。

尊永寺

高野山真言宗別格本山の寺院。寺号の「尊永寺」よりも山号の「法多山」の名で広く知られている。本尊は聖観音(正観世音菩薩、厄除観世音)。厄除け観音として知られ、厄除だんごが名物となっている。神龜2年(725年)聖武天皇の命により「大悲観音応臨の聖地」を捜し求めた行基によって建立されたという。中世以降、守護大名今川氏の庇護を受けた。天正18年(1590年)、豊臣秀吉は当寺の寺領として205石を安堵。この205石は歴代徳川将軍によっても安堵され幕末まで維持された。最盛期には60余の子院を有し、近世にも12の子院が残っていたが、これらは明治時代までにすべて廃絶している。江戸時代後期の火災で伽藍を焼失し、現在の本堂は1983年に再建されたものである。

